

# 武生高校生徒課題研究発表会&生徒交流会参加

令和2年12月19日(土)に武生高校主催で行われた生徒課題研究発表会&生徒交流会に本校1年生4名が参加し、ポスター発表しました。

研究 I で1学期に実施した「福井が抱える課題」のプレゼンテーションを自主的に推し進め、市役所や企業にインタビューに行ったり、資料の提供を受けたりして発展させた内容をポスターにして堂々と発表しました。

生徒交流会も行われ、課題研究の難しさや理想的な発表について、他校の生徒と熱く議論しました。





## 福井の交通マナー

福井県立藤島高等学校 1年  
池田卓人 川上真陽 安間仁之輔 山本丈太郎



### はじめに

私たちは校内の研究活動で福井の抱える課題について考え、学年で発表会を行った。そこでは、今の福井の課題や欠点を様々な観点から分析し、福井の課題について家世状のりや一として私たちに何が出来るかなどの理解を深めた。そして私たちは身近に感じる以下の課題、その課題を解決するために福井市が行っていることなどを研究した。

### 課題

私たちは福井県の人口10万人当たりの交通事故死者数が全国でワースト1位(表1)に位置していることを課題とした。そして何が原因であるかを明らかにし、福井が交通事故数の減少を実現するための解決策を研究した。

順位	都道府県	10万人当たり交通事故死者数	順位	都道府県	10万人当たり交通事故死者数
1位	東京都	1.95人	47位	福井県	5.28人
2位	大阪府	1.67人	46位	愛知県	5.11人
3位	神奈川県	1.77人	45位	三重県	4.83人
4位	京都府	2.00人	44位	岩手県	4.70人
5位	埼玉県	2.39人	43位	山形県	4.63人

出典 parkhog (データは警視庁交通事故統計による)

### 原因と解決策

**(環境)**  
① 信号の少なさ、歩道の少なさ  
→ 住居の密集を求め市役所などに申請することで道路課、警察が優先順位をつけて対応することが可能  
例 特に危険な道路をゾーン30(法定速度が30km/h)に設定する

**(意識)**  
① 飲酒運転の多さ(2019年千人当たりの飲酒運転の検挙率全国9位)  
一代行サービスを県や市が推進する  
メリット: 出先でお酒を飲んでも車を家に帰ることができるため飲酒運転防止になる

② スピード違反 ※オービス…速度違反取締装置  
→ 可搬型オービスの設置の拡大  
メリット: 移動可能な扱い監視カメラでも設置することができる  
→ オービスが設置された場所だけで運転手がスピードを落とすという問題を解決できる

 可搬型オービス  通常のオービス

③ 夜にハイビームを使わないこと  
→ 夜間のハイビーム点灯が義務化されていることを呼びかける  
警視庁のデータによると56%の衝突事故がハイビームをつけていたら回避できた可能性が高いといわれている

**(高齢化)**  
① 認知症の多さ  
→ 車に事故防止機能を搭載する  
※ 事故防止機能を過信しすぎないようにする

② 免許返納率の低さ (2018年福井県は全国31位)  
→ 免許返納制度の改善  
現在免許返納の明確な基準がなくどんな人でも運転できてしまう  
免許返納制度の例 タクシー、バスの乗車券の配布

### 福井県の現状

年別	H27	H28	H29	H30	R1
全体(%)	0.26	0.32	0.49	0.48	0.60
65歳以上(%)	1.12	1.34	1.98	1.93	2.26

免許返納率は徐々に上がっている  
→ 重体になる重大事故が増加し、免許を返納する意欲が高まった

### 福井市の目標と現状

#### 福井市の交通目標

- ① 人身事故減少傾向の定着化を図る。
- ② 令和2年までに交通事故死者数を10人以下とする。

年別	H27	H28	H29	H30	R1	R2 (11月末時点)
人身事故件数	980	833	724	629	526	291+a
傷者数	1146	972	811	725	589	318+a
死者数	11	20	15	7	7	11+a

#### 福井市の現状

目標①は毎年人身事故件数が減少しているので達成できている。  
目標②はH30、R1 だけは達成できていたが今年度は11月末の時点ですでに11人も死者が出てしまい達成できていない  
→ 高齢者の死亡事故が増加したことが主な原因  
(現在、高齢者死亡事故多発警報が発令されている)

#### 福井市の取り組み

- ・交通安全教育推進事業 (高齢者や児童に交通安全教室を実施)
- ・四季の交通安全市民運動事業 (街路指導や広域を実施)
- ・福井市交通安全推進員の活動
- ・交通安全推進団体の活動支援
- ・高齢者運転免許自主返納の啓発・支援

#### 私たちにできること

- ・祖父母の運転が危ないと感じたら、祖父母に免許返納を勧める
- ・登下校の際、自転車などの交通ルールを守る
- 例 ・イヤホンを着用しながら自転車を運転をしない
- ・並進走行をしない
- ・夜間にはライトを点灯させる (上の事項は自転車安全利用五則で定められている)

#### まとめ

本研究は、福井市役所、ネットヨタ、運転者教育センターより協力を得て、様々な情報のもと、福井県民の意識の低さや環境設備の充実度の低さを明らかにすることができた。また、福井市の掲げる目標と現状とのギャップを知ることができた。しかし、福井市役所をはじめ福井市全体が福井の交通状況を改善するため、様々な活動を行っていること知り、私たち一人一人がより高い意識を持つことが大切だと感じた。この研究を通して、今までより交通マナーや交通状況について自分事として深く学ぶきっかけとなった。

#### 今後の課題

時間の都合上、自動車の性能向上による交通事故の減少についての研究をすることができなかったため、これからネットヨタなどの企業と連携を取り合って、研究を進めていきたいと思う。

#### 謝辞

研究にご協力してくださった福井市役所、ネットヨタ、運転者教育センターの皆様へ改めて感謝申し上げます。